



津田沼奏の杜エリアでの地域防災

～約8,700人を対象に住民・企業・行政等が協働～

千葉県習志野市 一般社団法人 奏の杜パートナーズ
三菱地所グループの防災倶楽部

マンション防災は、建物単体で完結しない――。

津田沼奏の杜エリアでは、この課題意識を出発点に、住民・企業・行政が連携した“まち全体の防災”を約10年かけて育ててきました。

1 背景

奏の杜は千葉県習志野市津田沼駅南側に位置し、土地区画整理事業によって整備され2013年にまちびらきをした約35haの新しいまちです。奏の杜エリアの防災訓練は、2015年3月に「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜」(721戸)からはじまり、初めて行う防災訓練を企画する段階から、居住者と三菱地所グループで「街全体で助け合えるようになる」ことを目指して取り組んできました。これは、東日本大震災などの被災地を訪れ、マンションの「外」の繋がりにも助けられた被災地の声を多く聞いたことから、“マンション住民のみによる災害時対応は限界があり、街全体で助け合う必要がある”との思いが前提になっています。

2 取り組みの内容

ザ・パークハウス 津田沼奏の杜 (721戸) から始まった防災訓練は、同エリアの三菱地所レジデンスが分譲したマンションに広がり、エリアマネジメント組織「奏の杜パートナーズ」との連携により、周辺の戸建や他社

分譲マンションも協働し、現在では奏の杜エリアの約8,700人を対象としたまち全体の防災訓練に広がりました。さらに習志野市自主防災組織への声掛けや習志野市内掲示板の活用も行い、近隣地域にも広く発信をしています。



約8,700人を対象にした津田沼奏の杜エリア防災訓練

《災害時に「自ら動く」ための、実践的かつ多様な防災訓練の展開》

防災訓練では、地域で助け合うための防災備品の使い方を身につける訓練や、地域の防災設備を学ぶ訓練等、従来の消防・避難訓練にとどまらず、被災生活まで見据えた実践的な防災訓練を継続的に実施しています。また、2026年3月に実施した訓練では、初めての取り組みとして、「音楽のまち習志野」というまちの特色を生かし、様々な世代が「音楽」をきっかけに防災について考え災害時に助け合える関係性を育むことを目指して「まちの防災ソングづくりワークショップ」も実施しました。地域のさまざまな団体などと連



「まちの防災ソングをつくろう」の様子



見守りガーデニング

携し、世代を超えた参加を促す工夫も凝らしています。

3 取り組みの成果と広がり

約10年にわたり継続してきた防災訓練の積み重ねにより、近隣マンションとの連携が根付き、大型の台風時には無線機を用いた情報共有を行うなど、協力体制が確立されました。また、「人と人とのつながりが災害時の助け合いに活かされる」という考えのもと、日常のコミュニティ形成にも注力してきました。奏の杜パートナーズでは、夏休みのラジオ体操・スマートペットプロジェクト・見守りガーデニングなどを通じて、子ども・親・ペットをきっかけとした世代を超えた交流や会話が生まれ、顔見知りの関係が広がっています。2023年には奏の杜エリアにおいて初めてとなる、夏祭りを開催しました。夏祭りでは、当日の運営ボランティアを募集し、医療関係者や高校生など地域内の幅広い世代が運営に参加しました。こうした日常のつながりが、災害時の迅速な声かけや支援につながり、まちの防災力の向上にも寄与しています。平常時から地域内の関係性を深めることで、災害時にも円滑に連携できる体制づくりを構築しています。



夏祭りを通じた、日常のつながりづくり

さらに、長年取り組んできたノウハウを奏の杜以外の地域にも共有することで、防災力の広がりも生まれています。

4 最後に

平常時の小さな交流の積み重ねが、災害時の大きな支えになると信じて、奏の杜ではまちの防災に取り組んでいます。地域防災は特別な訓練に加えて、日常の中で育てていくものだと思っています。